

クロヤツシロラン

Gastrodia pubilabiata Sawa

ラン科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

本県では稀産の植物で、現在知られている産地は数箇所しかない。(現況:RO)

形態

本県に産するオニノヤガラ属植物はオニノヤガラ、本種クロヤツシロラン、疑わしいものにアキザキヤツシロランがある。いずれも、地生の腐生植物で葉緑素がなく、葉は退化して茎には鞘状の鱗片がまばらに着く。このうち、本種クロヤツシロランとアキザキヤツシロランでは、花柄は20~30mmで、花後は急速に伸長する。本種クロヤツシロランでは花は1~3個、萼は長さ9~11mm暗紫褐色で黒味があり、唇弁の内面にクリーム色の毛を密生する。アキザキヤツシロランは本種に類似する点が多いが、花は2~7個着き、花色は帯紫褐色、唇弁の内面にクリーム色の毛が密生することはない。

国内分布

詳細は不明。神奈川、高知、静岡、鹿児島各県に分布。

県内分布

南加賀区、加賀中央区、奥能登。

生態など

地生の腐生植物で大きな根茎をもつ。開花期は9~10月。

生育環境

照葉樹林、竹林の林床。

危険要因

森林伐採。

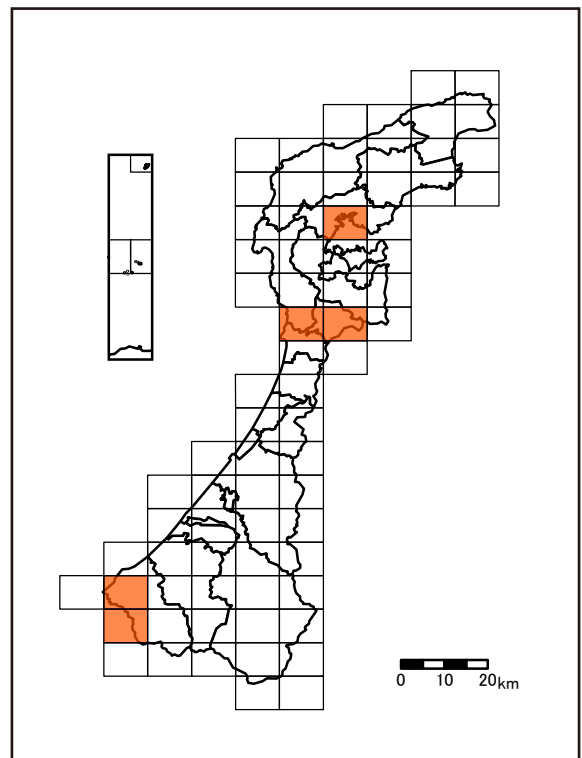
特記事項

花期以外の時期でのアキザキヤツシロランとの区別は困難。少し前までは本県では極めて稀産と考えられていたが、最近の調査で新産地が確認された。

杉本順一.1984. 静岡県植物誌、金沢大学総合移転特別委員会・金沢大学理学部植物園. 1996. 金沢大学総合移転第Ⅱ期計画地内植物調査報告。



本多郁夫・2003年10月4日・能登



県内の分布